



Young Ophthalmologists Committee Hot Topics !



Instagram

日本の眼科と若手眼科医の 未来のために！

竹溪友佳子, 田中 寛, 安藤拓海, 木内 岳, 鈴木文那, 土屋俊輔
橋本りゅう也, 福津佳苗, 渡邊敦士, 高橋洋平

日本眼科学会戦略企画会議第二委員会
Young Ophthalmologists Committee

Young Ophthalmologists Committee(YOC) の紹介

皆さんはYoung Ophthalmologists Committee(以下, YOC)をご存知でしょうか? YOCは, 若手眼科医で構成される組織であり, 世界各国で設立されています。そして今回, 日本でも日本眼科学会のもとで2023年2月に設立されました。この組織の目的は, 日本の眼科医療の発展を目指し, 若手医師のキャリアパスの開拓, 国際的な人材育成, 研究活動の推進など, 若手医師をサポートすることにあります。

具体的な活動内容や今後の展望について, より多く

の方に知っていただきたいと思います, ここで私たちの考え方や活動について紹介させていただきます。

これまでの活動

YOCでは「若手眼科医師のモチベーションを高め, 活躍の場を広げるためにはどうすればよいのか」という疑問に対し, メンバーで何度も討論を重ねました(写真1)。その中で, 「人と人との出会い」が鍵になると考え, 実際にYOCメンバーによる国内短期留学を実施しました。そこでの気づきや問題点を示すために, 2023年10月の日本臨床眼科学会のシンポジウムでその成



写真 1 Young Ophthalmologists Committee(YOC)の Web 会議の様子。



写真 2 第 77 回日本臨床眼科学会での YOC 企画シンポジウムの様子。

果を発表しました。

また、順天堂大学心血管外科で先駆的に多施設間での人的交流を行い、日本のリーダーとして活躍している田端 実先生をお招きし、システムづくりや若手が活躍できる方法について話し合い、多くの方と共有しました(写真 2)。さらに、今年の日本臨床眼科学会では、若手医師が活躍できるような医局の改革に寄与するシンポジウムを開催する予定です。

■ 現在の問題点と活動目標

なぜ「人と人との出会い」が鍵になると考えたのでしょうか。それは、学会で活躍している先生をみて憧れても、医局に戻ると臨床や雑務に追われ、研究環境を整えたり、研究を継続していく意欲が徐々に失われることがあるからです。もし、研究を始める際に他施設を見学できたり、離れていても自分が興味を持っている分野について相談できる相手と出会えたりしたらどうでしょうか？

このような問題を抱えている若手医師は多いと考え、そのようなシステムづくりが必要と判断しました。その一つが“国内交流システム”です。現在、受け入れ

施設への連絡を行っており、これから交流者へのサポート体制の確立と募集を進めていきます。今後は受け入れ施設への表彰も行う予定です。アカデミアの垣根を越えた人的交流が必要と考えていますので、多くの先生方の応募をお待ちしています！

■ 情報共有と活動の周知

諸外国の YOC 活動のように、若手医師の活発な交流が鍵になると考えました。そこで、日本でもデジタルコンテンツを配信し、若手医師のみならず各施設の指導医にも若手の関心事を理解してもらうために、ホームページと Instagram を立ち上げました。

今後、我々の活動をより多くの方に知っていただくために、以下の取り組みを行います。

- ホームページでの情報発信
- Instagram での情報発信
- 日本眼科学会雑誌でのコラムの掲載

これらの取り組みを通じて、情報共有と活動の周知を図っていきます。皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。